

2023年度フィールドスタディ・地域活性化論実施報告

科目名	地域活性化論B実習	教員名	藤木千草
実習先	株式会社地域法人無茶々園（愛媛県西予市明浜狩浜2-1350）		
実習期間	2024年2月13日（火）～17日（土）		
テーマ	まちづくりの実践現場を体験して地域課題への取り組みに対する視野・知見を広げる		

目的（実習のねらい）

約40年前から柑橘類の有機栽培に取り組んでいる無茶々園は、農業だけでなく環境に配慮した真珠やちりめんなど海産物の生産、高齢者福祉、外国人実習生の人材育成、子どもの教育なども幅広く手がけ、都市の消費者との交流も積み重ね、この地域に魅力を感じた若者が数多く移り住むようになっている。その現場を訪問することで、まちづくりの本質や必要な要素を体感して学ぶ。また、授業中に考案してきた自分のまわりの課題解決のための事業プランを充実させる。

実習報告

1日目 2月13日

12時にJR松山駅に集合し、特急で卯之町へ。

無茶々園（廃校を利用した「かりえ笑学校」内）へ移動。

14:30 オリエンテーション

無茶々園の概要説明をうける。

実習中に考えるテーマは「利益が見込める人を呼び込むプラン」とした。

18:30～21:00

夕食として現地でお世話になる皆さんとの懇親会を開催。

「あけはまーれ」のログハウスに宿泊



2日目 2月14日

9:00～11:30

公民館で「かりとりもさくの会」の説明後、近隣の段々畑を視察
段々畑の頂上で昼食（地域の方の手作り弁当）

13:30～16:30

狩浜の岸壁で釣り体験

民泊をさせていただく。



3日目 2月15日

9:00~12:00

片山家、斎藤家で農業実習として選果や出荷作業を手伝う。

「あけはまーれ」に戻り、昼食

13:30~14:30

加工場の視察後、フリータイムとし、事業プランについてグループワーク



4日目 2月16日

9:00~10:00

宇和選果場を訪問し、各地から集まってきた柑橘類について説明を受ける。

10:30~12:00

「かりえ笑学校」にて福祉事業（デイサービス・有料老人ホーム・訪問介護・居宅介護支援サービス等）の株式会社百笑一輝のお話を聞く。

「あけはまーれ」に戻り昼食

14:00~16:00

青のり・真珠説明作業体験

無茶々園グループの株式会社佐藤真珠で真珠や青のりの養殖についてお話を聞き、小物の袋詰め作業を手伝う。

16:00～17:00

海産物加工の祇園丸の工場を見学し「ちりめん」の説明を受け、漁船に乗って狩浜漁港内をまわり、海から見える地域の状況を確認した。



5日目 2月17日

9:00～11:00

「かりえ笑学校」にて「利益が見込める人を呼び込むプラン」のまとめと発表準備

11:00～12:00 発表会

JR 卯之町駅に移動し解散



成果 学生のレポートより

・限られた場所でいかに売り上げを出すか、また、新たに価値を作っていくかを試行錯誤している姿は非常に勉強になった。雇用をどうやって生み出し、どうやって利益につなげるのか、高齢者社会の現在でどうやって福祉事業を行うのかなど、いろいろ聞いて勉強になった。自宅で過ごせるだけ過ごして、介護センターに向かう。そしてそこでクラッカーづくりなどをして仕事をするなど、誰にでも居場所があるというのは、心のよりどころになるし、健康になるのだろうなと感じた。実際、今回あった高齢者の方々はみんな非常に元気で、笑顔が多かった。

・知識としてではなく、体験を通して身をもって学んだこととして、道々で出会う人々がどこの誰かわかるくらい地域内コミュニティが深く、漁業担当と福祉担当など部署が大きくことなる場合であっても親睦があるという関係は包括的に発生する問題を把握できて、何より都会より暖かみがあり居心地が良かった。また、農業（段々畑）や漁業がどれほど大変なものか、「大変」という知識はあったが、それを感覚的にも理解することができた。

・まず住んでいる人がとてもあたたかくて田舎の良さを感じた。他者とのつながりが希薄な現在ではあまりない体験だったので、あんなにいろんな人と関わってとても楽しかったし、居心地がよかった。

・無茶茶園はもともと当時の社会問題を背景に有機農業に取り組んだことで生まれた事業だが、自然に関わる漁業や、地域の福祉問題にも取り組むことで地域内のつながりを強め拡大した。その後は都会の人に田舎に憧れがあるという需要を踏まえ、都会からの移住に貢献した。これらを踏まえ、初日の話にもあったが、今や日本のどこにでも需要があり、経営としては特別難しいわけではない福祉が生き残るためには、その地域を巻き込んだ事業の姿勢が大切であると学んだ。また、福祉事業は行政が苦手なところを補填するように協力できることをよく学んだ。

学生の向上度、講座の難易度等

- ・地元の多くの方々との交流とお話から「地域活性化」の本質を考えることができた。
- ・最初は物が無い、スーパーもない、コンビニもない、の無い無いづくしで不便だと思っていたが、この不便さを楽しむということを学べた。

現地の多くの方々のご指導とご協力のもと、学生たちには、日ごろ接することができない農業・漁業・福祉、そしてまちづくり全体について現場を通して学んだ。さらに現地の活性化につながるプランを5日間の中にグループで考えて発表するという作業もあり、前向きに取り組むことが求められた。

今年度は2チームが「グランピング施設の設置」と「まち全体で秘密基地をめぐるオリエンテーリング」というプランを発表し、現地の皆さんには「着眼点が面白い」と評価いただいた。

以上